

私にも 言わせて! 第89回

公衆衛生医師3年間を振り返って



島根県県央保健所
医事・難病支援課
医療専門員
上野 明則

平成27年島根大学卒業。29年
初期臨床研修を修了し、島根県入
庁。30年より現職。

初めまして。島根県県央保健所の上野明則と申します。初期臨床研修修了とともに島根県に入庁し、公衆衛生医師3年目になりました。昨年は第2子が生まれ、3か月間の育児休暇を取らせていただきました。この3か月間は、私にとって大きな経験となったこともあり、育児休暇のことも含めて、これまでの3年間を振り返りました。

はじめに

このたび、大変恐縮ながら執筆のご依頼を引き受けさせていただきました。島根県へ入庁した経緯や、この3年間で経験した業務について、3か月間の育児休暇について、さらに今後について書かせていただきました。拙い文章ですが、よろしくお願いたします。

島根県へ入庁した経緯

島根大学医学部を卒業後、島根大学医学部附属病院で初期臨床研修を修了し、卒後3年目に島根県へ入庁しました。公衆衛生を志し

当たる他職種の皆さまに丁寧にご案内いただきながら業務を行ってまいりました。

地域包括ケアシステム推進については、住民に対する啓発のための研修や保健医療行政等関係者の多職種研修会を企画しました。市町の保健師さんや社会福祉協議会の職員の方に助けていただきながら、研修会の準備から開催までを主として担当し、当日はたくさんの方々の参加していただき、住民の方々に参加してくださいました。

また、地域包括ケアシステムに関する業務以外にも、結核発生時、精神措置通報時、食中毒発生時の対応や、感染症検査の保健指導、医療監視など基本的な業務についても経験する機会を多く設けていただきました。以上のように幅広

たのは、医学部6年生の臨床実習で1か月間の保健所実習を選択したことが最初のきっかけでした。その1か月間で難病患者を訪問、健康教室での発表、HIV検査の保健指導など、保健医療の実際を初めて知ることができました。また、環境衛生についても実習をしていただき、作業着を着ての河川採水、浄化槽の検査、不法投棄の現場やごみ処理場の見学など、病院では経験することができない貴重な経験をたくさんさせていただきました。

保健所実習を選択したのは病院の外も見えてみたいという単純な動機で、業務を経験させていただくことも、担当者として業務を行うこととでその具体的な対応についても勉強することができました。

2年目の業務について

2年目の主な業務は、結核の公費負担事務でした。1年目に結核発生時の対応を行っていたことで、公費負担についても知識はあるつもりでしたが、担当者として実際に業務を行うと分からないことばかりで非常に戸惑いました。その際にも周囲のさまざまな方がサポートしてくださりました。

公費負担事務以外にも、疫学調査や胸部X線の読影など、結核に関わる業務を全般的に経験させていただきました。結核患者やそのご家族とお話する機会も多く、時間をかけてでもしっかりと意思を聞くよう心掛けました。結核に対する不安な気持ちを持っておられる場合は、正しい知識をお伝えすることで不安を払拭できるよ、分かります。施設職員や行政関係者等を対象とする研修会も開催しました。できるだけ分かりや

機でしたが、この1か月間の実習で保健所の業務が多岐にわたることを知り、驚きました。そこから公衆衛生に興味を持ち、公衆衛生医師が進路の選択肢の一つになりました。

卒業時には明確に進路を決めていなかったものの、初期臨床研修中も公衆衛生の道に進むことを考えていたため、地域医療研修では保健所も選択しました。この2か月間では、結核発生時の対応、医療監視、糖尿病重症化予防についての市町との協議、鳥インフルエンザ発生時の訓練など、保健医療に関する業務を中心に経験させていただきました。実習と研修を合わせて3か月間、保健所の業務を経験し、病院外で患者の生活を支え、病気を予防することで人々の健康や地域の医療を守るといふ公衆衛生の役割に魅力を感じました。卒後3年目のタイミングで社会

すくということを中心掛け資料を準備しましたが、理解していただきたい知識を専門知識がなくとも理解できるようにかみ砕き、確実に覚えていただける内容に精査することに大変苦心しました。

研修会終了後のアンケートでは、多くの参加者に「分かりやすかった」との感想をいただき、苦労が報われた感じがしました。何度か研修会を開催するうちに、集団を対象として健康に対する正しい知識を普及することに非常にやりがいを感じるようになりました。

また、平成30年4月に発生した島根県西部地震では、深夜に呼び出されるとい経験をし、災害時の健康危機管理に対する責任の重さを実感することになりました。2年目は結核に関する業務全般を深く経験することができ、大きく成長することができたと感じています。

3年目の業務について

3年目の主な業務は、結核に関するに加えて、医師確保計画に関するものでした。第2子誕生に伴い、7月より育児休暇を取ら

医学系専門医制度が開始したことにも後押しされ、私は進路を公衆衛生医師に決めました。

1年目の業務について

私が配属された県央保健所は、東西に長い島根県の中央に位置する中山間地域にあり、人口は1市3町を2次医療圏とした約5万2000人、高齢化率は約42%です。高齢化率は島根県の2次医療圏の中で最も高い圏域です。

1年目の主な業務は地域包括ケアシステム推進の担当でした。地域包括ケアシステムについて保健所研修を受けてはいたのですが、実際、その担当者として業務を行うとなると、何をすればいいのかまったく分かりませんでした。それ以前に、文書の作成や決裁など行政の仕事の進め方そのものが初めてで苦戦しました。勉強の毎日でしたが、上級医や職場の先輩に

せていただきましたので、医師確保計画については具体的に進めることはできませんでしたが、復帰後は計画策定に向け取り組む予定です。

育児休暇中は初めての女の子の育児に癒やされ、3歳の長男とも朝から晩まで毎日遊ぶことができ、かけがえのない時間を過ごすことができました。また家事についても、今回の育児休暇中に料理ができるようになりました。復帰後も続けていこうと思っています。休暇を取ることに不安がなかったわけではありませんが、家族と貴重な時間を過ごすことができ、職場の皆さまには心より感謝しております。

今後について

この3年間は公私ともに充実した時間を過ごすことができました。今後は、保健医療科学院での研修で公衆衛生の知識を体系的なものとし、さらにその知識を業務を通じて深めることで公衆衛生医師としての能力を向上させ、保健医療活動を行っていくと考えています。